

「心に残る文化財子ども塾」学習指導案

日時 令和2年7月14日(火) 13:40～15:30

場所 浜田市立第三中学校 ひまわり教室
技術室

対象 1～3年特別支援学級生徒8名

指導者 教職員3名

埋蔵文化財センター職員1名

1. 主題 古代の人々の生活について知ろう～勾玉づくり、火おこし体験に挑戦しよう～

2. ねらい

○自分たちの住む身近な地域の遺跡を知り、古代の人々の生活に興味・関心を持つ。

○火おこしや勾玉づくりの体験を通して、古代の人々の生活やものづくりの技術を知り、歴史への興味・関心を深める。

3. 展開

時間	学習活動	指導者の支援・配慮事項	分担
5分	今日の学習の流れを確認する。 (ひまわり教室)	・講師の紹介をする。	教科担当
15分	自分たちの住む地域の遺跡から縄文や弥生時代の人々の生活について知る。 ・自分たちの住む地域にどれくらいの遺跡があるか確認する。 ・遺跡が今からどれくらい前のものかを確認する。	・学習の内容やねらい、見通しを説明する。 ・指導者がパワーポイントなどの視覚的教材や写真、遺物や実物を提示することで生徒の興味・関心を高めることができるようにする。	職員
10分	休憩(技術室に移動する。)		
50分	勾玉づくりを行う。 ① 勾玉について知る。 ② 勾玉のつくり方の説明を聞く。 ③ 勾玉づくりを体験する。 ④ 片付けをする。	・何に使われたのかを考え、古代の人々の生活の様子を想像することで興味・関心を高めることができるようにする。 ・片付けが進んでできるように声かけを行う。	職員 教科担当
20分	火おこしをする。 ① 火おこしの方法について説明を聞く。 ② 火おこしの体験をする。 ③ 片付けをする。	・説明をよく聞き、けがや事故がないように声かけを行う。 ・協力しながら作業を進め、火おこしが成功出来るように支援する。	職員 教科担当
10分	学習のまとめをする。(パソコン室) ・学習を振り返り、感想を書く。 ・感想を発表する。(教室)	・古代の人々がどのような生活をしていたのか、体験を通して感じたことが表現できるように、個別に声かけを行う。	全員

※準備するもの

(学校・生徒) パソコン、プロジェクター、体操服、軍手、筆記用具

(埋文センター) 遺物、学習の資料、勾玉づくりセット、火おこしセット